

高等学校

平成 4 年 度

# 教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

## 教 育 研 究 員 名 簿

№	学 区	学 校 名	氏 名
1	1	日 比 谷 高 等 学 校	難 波 みよ子
2	4	板 橋 高 等 学 校	牧 田 延 之
3	4	板 橋 高 等 学 校	増 沢 和 夫
4	5	台 東 商 業 高 等 学 校	高 橋 久 子
5	6	第 三 商 業 高 等 学 校	川 澄 秀 一
6	7	八 王 子 東 高 等 学 校	清 原 敬 一
7	7	八 王 子 北 高 等 学 校	高 砂 浩
8	7	小 川 高 等 学 校	土 肥 信 雄
9	9	小 金 井 北 高 等 学 校	田 中 一 彦

担当

教育庁指導部高等学校教育指導部    星 野 佳 正  
三 輪 洋 次

## 目 次

I	はじめに .....	1
1	研究のねらい .....	1
2	研究の背景と主題設定の理由 .....	1
3	研究の進め方 .....	1
4	研究の経過 .....	1
II	ホームルーム活動の実態調査 .....	2
III	内容別題材例と年間指導計画のモデル .....	5
IV	ホームルーム活動の指導案 .....	8
1	個性を育てるためのホームルーム活動の指導案(例) .....	8
2	社会性を育てるためのホームルーム活動の指導案(例) .....	12
3	将来の生き方と進路の適切な選択決定に関するホームルーム活動の指導案(例) .....	16
V	実践事例に対する評価 .....	20
VI	アンケート調査に見られた意見 .....	23
VII	まとめ .....	24

## — 研 究 主 題 —

人間としての在り方生き方に視点をいたホームルーム活動  
— 個性・社会性の育成，進路指導を中心として —

### I はじめに

#### 1 研究のねらい

各都立高等学校におけるホームルーム活動の実態を調査し，人間としての在り方生き方を指導する上でいかにすればホームルーム活動を充実し，活性化させていくことができるかに視点を当て，その方策を探る。

#### 2 研究の背景と主題設定の理由

平成元年11月に告示された，新学習指導要領では，ホームルーム活動を中心に「人間としての在り方生き方」の指導の充実を図ることが求められている。また，その内容については，「個人及び社会の一員としての在り方生き方に関すること」と「将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること」にホームルーム活動に配当する授業時数の3分の2程度を配することとされた。そこで，“個性・社会性”及び“進路”というテーマのホームルーム活動に焦点を絞って研究することとした。

研究に当たっては，まず各都立高等学校が，ホームルーム活動を具体的にどのように実践しているのかを知るために，その活動の実態をアンケート調査した。また，“個性・社会性の育成，進路指導を中心として”の副題に沿ったホームルーム活動のテーマを様々な角度から検討し，74例にまとめた。その中から今回事例研究として取り上げたものの中には，重要なテーマではあっても生徒たちが必ずしも興味・関心を示さないものもある。しかし，周到的準備と適切な資料のもとに，指導上の創意・工夫をすれば，十分に生徒の関心を引き，興味を湧かせることができるとの仮説のもとに，テーマにそって6つの実践を行い，その具体的な展開例を本冊子に掲載した。この事例が，各都立高等学校において引き続き実践され，さらにより良いものに工夫・改善されることを期待する。

#### 3 研究の進め方

人間としての在り方生き方に視点をいたホームルーム活動が，各都立高等学校でどのように行われているか，また，どのような授業がホームルーム活動を活性化させることができるのかを研究の目標として，実態調査の結果を基にして，いくつかの指導案を作成した。さらに，これを実践し，その評価を通して改善の視点を探った。

#### 4 研究の経過

1	5/8	日比谷	研究主題の決定	4	9/3	台東商業	各実践事例の検討
2	6/15	板橋	研究内容の検討	5	10/9	八王子北	実践事例報告・検討
3	7/7	八王子東	指導案の作成	6	11/9	小川	指導案の検討
8/22～8/24 御岳研究集会 アンケートの集計分析，検討，考察 各学校における実態の把握 指導案の再検討				7	11/24	小金井北	研究報告の検討
				8	12/1	第三商業	報告書の作成
				9	1/14	板橋	報告書の校正
				10	2/8	都研	第6研修室にて発表

## Ⅱ ホームルーム活動の実態調査

各都立高等学校におけるホームルーム活動に関する実態を把握するために、全日制・定時制課程を対象にアンケート調査を実施した。

	全 日 制	定 時 制	合 計
調 査 校	210校	111校	321校
回 収 校	146校	76校	222校
回 収 率	69.5%	68.4%	69.2%

### 1 アンケートの結果と分析

(以下の%は回収校に対する割合)

**問1** 本年度の年間ホームルーム活動(ロングホームルーム)の回数は何回ですか?

**結果**

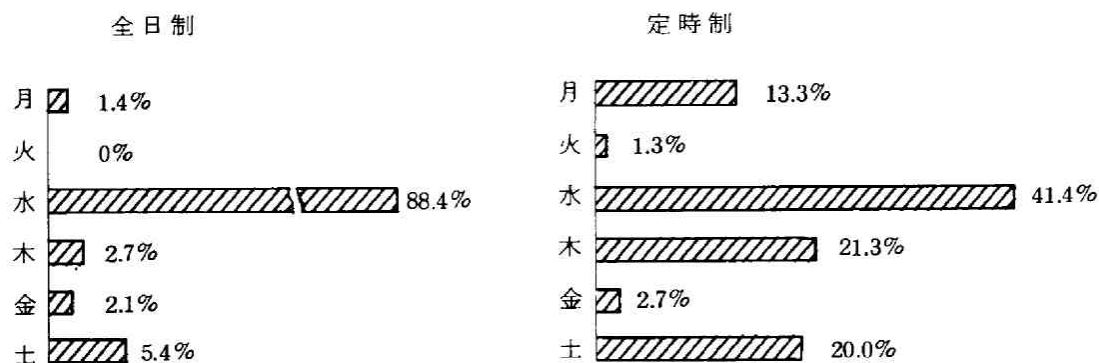
	1 学 期	2 学 期	3 学 期
全 日 制 平 均 (下限~上限)	10.0 回 (4回~16回)	11.3 回 (5回~16回)	6.9 回 (2回~12回)
定 時 制 平 均 (下限~上限)	9.6 回 (4回~18回)	10.2 回 (5回~15回)	6.3 回 (3回~12回)

**分析**

- 年間の平均実施回数は、全日制28.2 単位時間、定時制では26.1 単位時間である。
- 学校行事等で欠ける場合があると考えられるが、回数の確保に向けて改善を要する大きな課題である。

**問2** 貴校では、ホームルーム活動の時間をどの曜日に設定していますか?

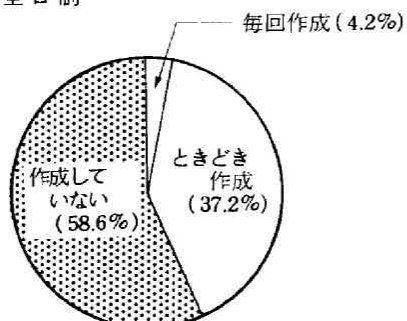
**結果**



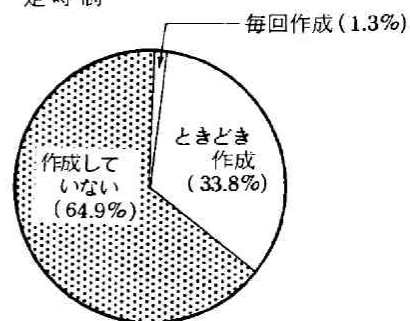
問3 先生は、ホームルーム活動の1時間ごとの指導案を作成していますか？

結果

全日制



定時制



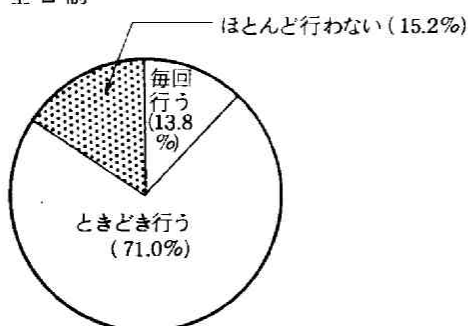
問3の分析

- 各教師の約40%が作成しているが、学校として作成しているのは全体の約30%である。学校としての取組みが盛んになることが望まれる。
- 作成していない理由としてはアンケート調査に見られた意見(p.23)を参照されたい。

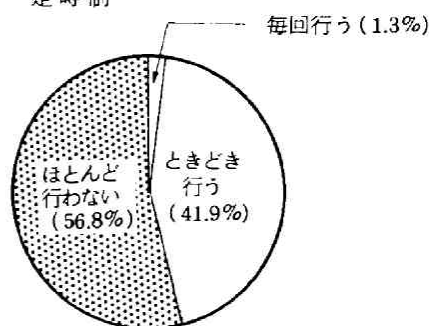
問4 先生はホームルーム活動の指導のために、事前に生徒と打合せを行いますか？

結果

全日制

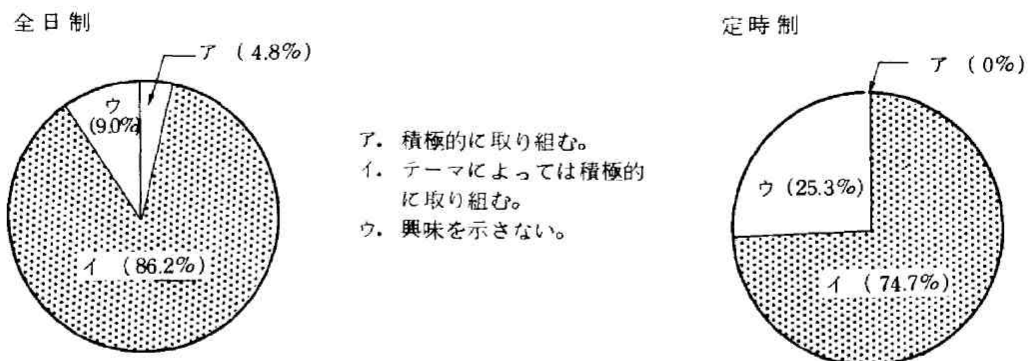


定時制



問5 ホームルーム活動について生徒の姿勢はどのような状況ですか？

結果



分析

- テーマの設定次第で約85%の生徒が積極的に取り組むことが分かる。  
したがって、ホーム活動を活性化するためには、生徒の意見が反映されるよう生徒との十分な事前打ち合わせが肝要である。

問6 ホームルーム活動の内容別授業時数配当度（全日制，定時制の合計）

結果

(1) ホームルームにおける「集団生活の充実と向上」に関すること。

年0回	年1～2回	学期1～2回	月1～2回	月数回	無 答
19.2%	36.3%	27.4%	9.0%	6.1%	2.0%

(2) 「個人及び社会の一員としての在り方生き方」に関すること。

ア 個人生活・社会生活の充実のための活動

年0回	年1～2回	学期1～2回	月1～2回	月数回	無 答
40.0%	33.9%	12.0%	2.9%	0.9%	10.3%

イ 学業生活の充実のための活動

年0回	年1～2回	学期1～2回	月1～2回	月数回	無 答
21.8%	37.7%	20.0%	4.8%	2.1%	13.6%

ウ 健康・安全，基本的な生活習慣に関する活動

年0回	年1～2回	学期1～2回	月1～2回	月数回	無 答
10.8%	40.9%	26.9%	12.2%	8.1%	1.4%

(3) 「将来の生き方と進路の適切な選択決定」に関すること。

年 0 回	年 1 ～ 2 回	学期 1 ～ 2 回	月 1 ～ 2 回	月 数 回	無 答
18.2 %	36.9 %	21.5 %	8.6 %	4.1 %	10.7 %

#### 分析

アンケートから、ホームルーム活動において、それぞれの内容に関して配当する時数は、およそ次のようであることが明らかになった。

一校当りの各領域の実施度は次の通りである。

- (1) ホームルームにおける集団生活の充実と向上に関すること。…………… 24.8 %
- (2) 個人及び社会の一員としての在り方生き方に関すること。
  - ア 個人生活・社会生活の充実のための活動 …………… 9.6 %
  - イ 学業生活の充実のための活動 …………… 15.2 %
  - ウ 健康・安全、基本的な生活習慣に関する活動 …………… 29.8 %
- (3) 将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること。…………… 20.6 %

以上の結果から、(2)及び(3)の項目についての合計は、75.2 %である。したがって現在も、各都立高等学校が実施しているホームルーム活動のうち、内容(2)及び(3)に配当する時数は、新学習指導要領に示されている3分の2程度を満たしている。

### Ⅲ 内容別題材例と年間指導計画のモデル

アンケート（p.4，問5）で明らかのように、生徒がホームルーム活動へ参加する姿勢は、その時間の題材によって変わってくる。しかし生徒の興味・関心だけで題材を選んでいたのでは、偏りが生じ特別活動の目指すべき指導目標は実現できない。

新学習指導要領に示されている内容(1)～(3)に基づき、考えられる題材を検討し、次ページの表にまとめた。表中のいくつかの題材名の横に（ ）で示した数字は、生徒に行ったアンケート調査（都立高校8校，計324名）の結果，興味・関心があるとした答えの多かった題材名の，各分野ごとの上位5位までの順位である。これらを加味し，新学習指導要領に示された内容(2)及び(3)が全体の3分の2程度になるようホームルーム活動の年間指導計画を作成したのが，7ページの表である。この表の題材名の上に網を施したものについて，本誌8ページ以降に，その題材の具体的な指導案例を示し，その実践例および評価を報告する。

＜ホームルーム活動の内容別題材例＞

ホームルーム活動の内容		題 材 例	
・ 集団生活の充実に 関すること 向上	生徒会委員・クラス係等の選出	「委員・係の仕事と責任」「自分がクラスに貢献できること」「クラスの中の個人の役割(5)」	
	旅行・集団宿泊的行事に関する手続きなどの活動	「修学旅行(遠足)に行く目的を考えよう(4)」 「宿舎での生活のルールをつくろう」	
	文化祭・体育祭などの学校行事に関わる活動	「文化祭の社会性について考えよう」「体育祭必勝大作戦(1)」 「見てもらえる文化祭企画(2)」	
	勤労生産・奉仕的行事についての活動	「学校周辺クリーン作戦」「用務主事さんなどのお話を聞く」「ボランティア体験談発表」	
	その他、集団生活の充実・向上に関わる活動	「成績アップのための席替え(3)」 「全校集会と自分」「文化祭と自分」「卒業式に向けて」	
	青年期の特質の理解	「青春とは何だ?」「青年期の心理(学)」 「高校生は大人か? (3)」	
・ 個人及び社会の一員としての在り方生活に 関すること	個人生活・社会生活の充実	自己の個性の理解	「私の長所・短所」「私の十大ニュース」 「1分間自己PR」「新年の抱負」
		人間としての在り方生き方の探求	「私の尊敬する人」「死について」「児童の権利に関する条約」「差別と人権」「地球環境を考える」
		男女相互の理解と協力	「理想の結婚相手」「男女混合名票について考える」 「男女交際の在り方(1)」
		集団生活における人間関係の確立	「挨拶を考える」「暴力について考える」 「真の友情とは?」「自己と他者」
		国際理解と親善	「自分の行きたい国」「国際貢献って何だろう」 「留学生の話聞く」
		その他、個人生活・社会生活の充実のための活動	「自由と規律について」「校則について(4)」 「掃除について考える」「学校生活への不満(4)」
	学業生活の充実	主体的な学習態度の確立	「嫌いな科目」「教科別学習法を考えよう」 「誰のための勉強?」「学習計画を立てる」
		教科・科目の適切な選択	「選択と進路」「自己を活かす選択教科の選び方」
		学校図書館の利用	「図書館の有効利用発表会」「読書コンクール」 「感動した本」
		情報の適切な活用	「プライバシーを考える」「情報の正しい選択」 「学校のしくみ」「コンピュータと人間」
		その他、学業生活の充実のための活動	「赤点について」「定期考査の傾向と対策」 「カリキュラムを考える」「私の勉強法」
	健康安全	健康で安全な生活態度・習慣の確立	「公衆道徳について」「交通マナーを学ぼう」 「食生活を見直そう」「エイズって何(2)」
		その他、健康・安全に関する活動	「ポルノグラフィについて考える」「生命について」 「私の健康管理法」「人間生活と自然環境」
・ 将来の適切な生き方と進路について	進路適性の理解	「進路希望調査(5)」 「私の得手・不得手」 「適性って何だ? (2)」	
	進路情報の理解と活用	「身近な人の職業」「先輩の受験報告書の分析」 「会社・学校訪問報告会」	
	望ましい職業観の形式	「社会を支える人たち」「人生の先輩に学ぼう」 「アルバイト体験談発表会(1)」	
	将来の生活の設計	「自己の将来を考える(ライフ・プラン)(3)」 「様々な生き方を知ろう(4)」 「私の歩む道」	
	進路先への適応	「お世話になった人へ近況報告を書く」 「社会に出る心構え」「面接マナーの基本」	
	その他、将来の生き方と進路に関わる活動	「履歴書の書き方」「求人票の見方」 「上級学校について調べよう」	



<年間指導計画のモデル>

月	回	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
4月	1	委員・係の仕事と責任	クラスに貢献できること	クラスの中の個人の役割
	2	高校生は大人か	青春とは何だ？	高校生の心理
	3	挨拶を考える	真の友情とは？	公衆道徳について
5月	1	校則について考える	学校生活への不満	自由と規律について
	2	教科別学習法を考える	誰のための勉強？	私の勉強法
	3	遠足の目的を考えよう	遠足の目的を考えよう	遠足の目的を考えよう
	4	体育祭必勝大作戦	体育祭必勝大作戦	体育祭必勝大作戦
6月	1	見てもらえる文化祭企画	見てもらえる文化祭企画	見てもらえる文化祭企画
	2	自己を知る	私の長所・短所	履歴書の書き方
	3	自己の将来を考える	様々な生き方を知ろう	求人票の見方
	4	身近な人の職業	進路希望調査	先輩の受験報告書の分析
7月	1	進路希望調査	私の得手・不得手	面接マナーの基本
	2	赤点について	学習計画を立てよう	情報の正しい選択
9月	1	掃除について考える	アルバイト体験談発表会	会社・学校訪問報告会
	2	文化祭と自分	文化祭と自分	文化祭の社会性を考える
	3	自分の行きたい国	留学生の話聞く	国際貢献って何だろう
	4	全校集会と自分	修学旅行の目的を考える	死について
10月	1	私の尊敬する人	修学旅行のルールを作る	生命について
	2	感動した本	感動した本	感動した本
	3	読書コンクール	読書コンクール	読書コンクール
	4	図書館の有効利用法発表	人生の先輩に学ぼう	プライバシーを考える
11月	1	食生活を見直そう	カリキュラムを考える	地球環境を考える
	2	私の健康管理法	自己を活かす選択科目	学校周辺クリーン作戦
	3	暴力について考える	学校周辺クリーン作戦	差別と人権
	4	学校周辺クリーン作戦	児童の権利に関する条約	ボランティア体験発表会
12月	1	期末考査の傾向と対策	人間の生活と自然環境	コンピュータと人間
	2	教科別学習法再検討	嫌いな科目	自己と他者
1月	1	新年の抱負	新年の抱負	新年の抱負
	2	交通マナーを学ぼう	交通マナーを学ぼう	交通マナーを学ぼう
	3	男女交際の在り方	用務主事さんの話を聞く	理想の結婚相手
2月	1	ポルノグラフィについて	社会を支える人たち	真の友情とは
	2	エイズって何？	私の尊敬する人	世話になった人への手紙
	3	上級学校を調べよう	私の歩む道	社会に出る心構え
	4	適性って何？	進路希望調査	卒業式に向けて
3月	1	私の十大ニュース	私の十大ニュース	私の歩む道

○網を施したものは本誌 8 ページ以降に具体的な指導案例を示す。

## Ⅳ ホームルーム活動の指導案

### 1 個性を育てるためのホームルーム活動の指導案(例)

- (1) 題 材 名：「自己を知る」
- (2) 題材設定理由：将来の自己の進路を自主的に選択決定するためには、まず自己の個性を理解することから出発することが大切である。そのためには、身近な社会集団の中での人間関係において、他者と共に生活する自己の在り方生き方について、自分自身で深く考えることが必要である。本題材では、ゲーム的な要素を加味しながら、生徒自身が自己を考察する力を幅広く育成する。
- (3) 対 象 学 年：第1学年
- (4) 本時の目標：①自己の特性などについて分析したり、友人同士で相互評価することを通じて、自己を見つめる機会とし、自己を多面的にとらえることが重要であることを考える。  
②ホームルーム内の友人の特性について考え、相互理解を図る。
- (5) 準 備：「自己を知るためのカード(次ページ資料1-1)」, 原稿用紙(人数分)
- (6) 形 態：6～9名ほどの班を編成し、班ごとの話し合いを基本にして活動を展開する。
- (7) 授業の展開

	活 動 の 内 容	活動の主体	時間	指導・援助の留意点
活動開始	・「自己を知るためのカード」及び原稿用紙を配布し、本時のテーマと内容・活動の進め方を説明する。	議長書記	5分	・事前に議長団と話し合い、注意事項などについて指導する。
活動の展開	(1) 自己PR文を書く。 ① 「自己を知るカード」に、無記名で数行程度の自己PR文を書く。 ② 班ごとに「カード」を集め、班長が順序不同に読み上げる。 ③ 各自が、読み上げられたPR文を誰が書いたものかを推察し意見を言う。	各自 班長 各班員	15分	・「カード」の自己分析表の項目以外にも、人間の性格や行動の特性を示すことができることが考えられればそれについても話し合うよう助言する。  ・友人についての評価や班内での話し合いで、他者の人格を傷つけることのないよう、人権上の配慮を十分に行う。
	(2) 自己評価と友人同士の相互評価を行う。 ① 各自が自己の特性などについて考え、「カード」の自己分析表に記入する。このとき「カード」への記名も行う。 ② 班内で3人1組になり、自己分析表を交換し、他の2人に友人からみた評価を「カード」に記入してもらう。	各自 各班	25分	
	(3) 友人から見た評価の記入された「カード」を見ながら、自己評価と他者からの評価とを比較し互いに感想を述べ合う。各自、その話し合いの要点を自分の「カード」にメモとして記入する。	各班 各自		
活動まとめ	・自己評価や友人同士の相互評価等を通して、自己の特性等を様々な角度から知ることの重要性を知る。 ・記入の終わった「カード」を参考にしながら、次回までに「私の長所と短所」という題で作文を書くよう連絡する。	各自 教師	5分	・本時の活動のまとめとしての作文の意義を徹底する。

### (8) 評価の観点

- ①生徒各自が、自己理解を深め、人間としての在り方生き方を真剣に考えることができたか。
- ②班内での相互評価の活動を、小集団内での人間関係を深める機会とすることができたか。
- ③話し合いを中心とする活動によって、より大きな集団の一員としての自覚を高められたか。
- ④この時間の作文を、進路相談の際の資料として活用することができる。

## 〔資料1-1〕

### 自己を知るためのカード

高校に入学して2ヶ月ほどたち、ホームルームの仲間とのつき合い方も深まり、友達についての印象もだいたい固まってきたのではないのでしょうか。しかし、友達はさることながら、自分自身はいったいどういう人間なのだろうかと考えたことはありますか？

今後、友人との関係をよりよいものとして高め、自分の学校生活を充実させ、さらに将来の自分の在り方生き方を考え、希望の進路を実現して行くためには、自分自身のことをよく理解しておく必要があります。

自己を知るということは、とても大切なことなのですが、それがなかなか難しい。そこで、本日のホームルーム活動では、そのための手がかりになるような簡単なゲームと話し合いを、議長の司会で進めて行きます。以下この用紙を議長の注意にしたがって記入していただきます。

#### 1 自己PR文

無記名で数行、自分の性格や長所・短所など、自分自身をPRする文を書いてください。班員全員が書き終えたら、班長が集めて読み上げます。それがいったい誰のPR文か皆さんで当ててください。自分のPR文が友達に当てられたら、このカードを返してもらい、記名してください。

.....

.....

.....

.....

#### 2 自己分析表

下の表の性格や行動の特徴を読んで、自分自身を評価し、自分として当てはまるところにその欄に○印をつけてください。自己評価を終えたら、班員相互でカードを交換し、2人の友達から自分を評価してもらい、表に同じように記入してもらってください。

	自 己 評 価	友人の評価(1)	友人の評価(2)
基本的な生活態度が確立している			
自主性がある／積極的である			
向上心がある／努力家である			
創造性がある／よいアイデアをもつ			
勤労意欲がある／怠けない・さぼらない			
情緒が安定している／感情に走らない			
責任感が強い			
公正である／正義感が強い			
公共心をもつ／マナーをわかまえている			
社会性がある／他者と協調して行ける			

#### 3 自己評価と友人の評価との比較

上の自己分析表を見て、自己評価と友達からみた自分に対する評価とを比較し、班内でお互いに意見・感想を述べ合ってください。その話し合いの要点を以下にメモしておいてください。その際、人格を傷つけないようにしてください。

.....

.....

.....

年 月 日

1 年 組 番：氏名

- (1) 題 材 名：「人間としての在り方生き方の探究 ―子どもの人権を通して―」
- (2) 題材設定理由：急速に国際化する社会にあって、人権に関する意識を高めることがますます重要となり、世界的にも、国際連合において「児童の権利に関する条約」（仮称）が採択され、子どもの人権の保障が世界共通の課題となっている。生徒が世界の異なる文化を理解し、自己の考え方に自信と責任をもって行動し、国際社会に貢献し得るためには、人権についての理解を深め、主体的に自己の在り方生き方を探求していくことが必要である。そのためには身近な社会集団である学校生活を通じて、日ごろから人権に対する意識を体験的に高めて行くことが大切である。本時は生徒の身近な人権問題を取り上げ、人権に関する意識を高めるとともに、主体性を育て、人間としての在り方生き方を探っていくための動機付けとする。
- (3) 対 象 学 年：第2学年
- (4) 本 時 の 目 標：①新聞の人権問題に関連する記事に対し、自分自身の意見を発表する態度を育てる。  
 ②子どもの人権を認識し、主体的に行動する生徒を育てる。  
 ③人権に関する意識を育てることにより、人間としての在り方生き方を探求する。
- (5) 準 備：①教師が適当と思われる新聞記事を事前に用意するか、各班ごとに人権に関する記事を用意する。  
 ②日本国憲法（第3章 国民の権利と義務）、児童の権利に関する条約（仮称）のプリントを配布する。  
 ③感想文用紙
- (6) 形 態：4～8名程度の班を作り、班ごとに分かれる。
- (7) 授 業 の 展 開

	活 動 の 内 容	活動の主体	時間	指導・援助の留意点
活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時のテーマと内容を説明する。</li> <li>• 本時の活動の進め方を説明する。</li> <li>• 用意した日本国憲法及び新聞記事を配布する。</li> </ul>	教 師	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本国憲法に基本的人権が保障されていることを示唆する。</li> </ul>
活動の展開	(1) 新聞記事を読む。 ①新聞記事について各班で話し合う。 ②話し合いを踏まえ、自分なりの考え方を書く。 ③班長に話し合った内容と自分の考え方を発表させる。	生 徒 班  班 長	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どのような人権を侵害しているかを考える。</li> </ul>

活動の展開	(2) 「児童の権利に関する条約」を配布する。 ①全体の構成及び条約の趣旨を理解する。 ②新聞記事と関連する条文を考え、発表させる。 ③子どもの権利を踏まえた上で、もう一度新聞記事の内容を話し合う。 ④話し合った内容を班長が発表する。	教師 生徒 班 班長	15分	・国際連合で採択され、子どもの人権保障が世界共通の課題になっていることを示唆する。
	(3) 学校や身近な生活の中で人権侵害に関わる問題があれば書く。	生徒	5分	・次回以降のホームルーム活動の資料とする。
活動のまとめ	・生徒一人一人の権利が保障されていることを理解する。 ・自分達の問題は、自らの主体的行動が解決の糸口となることを理解する。 ・今後もホームルーム活動で人権の問題について話し合うことを確認する。	教師	5分	・人権に関する新聞記事に関心を払い自分の問題として考えられるようにする。

(8) 指導上の配慮

- ①新聞記事は、扱い方によって多様な解釈ができるので慎重に取り扱う必要がある。また教師は生徒の主体性を育成するために、生徒の意見を尊重して、生徒の意見を聞きながら指導するという視点にたつことが特に大切である。さらに、生徒の要求や意見について教職員全員の総意を反映した形で、時にはその適否を明確に示すことも必要である。
- ②社会科等の教科との関連を図るように配慮する。
- ③プライバシーの保障や、人権上の配慮を十分に行う。

(9) 評価の観点

- ①自分の意見が表明できたか。
- ②表現の自由についての理解が深まったか。
- ③新聞記事に関心をもつようになったか。
- ④「児童の権利に関する条約」などについて関心をもつようになったか。
- ⑤新聞記事から発展して、人権に関わる関心をもつようになったか。
- ⑥他人の人権を尊重する態度が養われたか。

## 2 社会性を育てるためのホームルーム活動の指導案(例)

- (1) 題 材 名：「挨拶等の基本的な生活習慣について考える」
- (2) 題材設定理由：社会性を培う教育の一環として、挨拶等の基本的な生活習慣はどうあるべきかを考える。また、このテーマを通して人前で意見を発表し、他の人の意見を聞くことのできる態度を育てる。
- (3) 対 象 学 年：1 学年
- (4) 本 時 の 目 標：①社会性を育成する。  
②「てっぺい君の1日」という課題劇画(次ページ資料2-1)を使って挨拶等について考える。
- (5) 準 備：課題劇画を配布(人数分)、更紙(人数分)、模造紙、マジック
- (6) 形 態：7名程度の班を作り、班ごとに分かれる。
- (7) 授業の展開

	活 動 の 内 容	活動の主体	時間	指導・援助の留意点	
活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のテーマと内容を説明する。</li> <li>活動の進め方を説明する。</li> <li>班を作らせ、班ごとの司会者と発表者を選ぶ。</li> </ul>	議 長	4 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に議長と司会、進行について打ち合わせる。</li> </ul>	
活動の展開	(1) 課題劇画を配布し、各自読む。	各 自 班	12分	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのように改めるべきかも、討議させる。</li> <li>頭を下げることも挨拶の一種であることを知り、そのような身振りは国や地域の文化伝統によって違いがあることを知らせる。</li> <li>挨拶は、時、場所、場合によって違うことを知らせ、状況に応じて対応することが必要であることを認識させる。</li> </ul>	
	(2) 各班は主人公のてっぺい君の改めるべき点を話し、まとめる。	各 班	5 分 2 分		
	(3) 班ごとに、まとめを発表する。	各 班 教 師			
	(4) まとめの評価をする。次の課題を出す。	各 班	14分		
活動の展開	(5) 各班は ①人間はなぜ挨拶をするのか。 ②挨拶の仕方はどうあるべきかを話し合いまとめる。	各 班	2 分 8 分		
	(6) 班ごとに、まとめを発表する。	各 班 教 師			
	(7) 挨拶の意義を、説明する。	生 徒			
	(8) 挨拶の仕方を、ロールプレイ法で行う。				
活動のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の活動について、まとめを行う。</li> <li>本時の評価をする。</li> </ul>	教 師	3 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶は、お互いの連帯意識、人格の尊重、思いやり等に根ざしたものであるから、大切であることを認識させる。</li> </ul>	

## (8) 評価の観点

- ①挨拶の大切さを理解できたか。挨拶は状況に応じた対応が必要であることを認識できたか。
- ②人間としての在り方生き方を考え、社会性を身に付けることが大切であることを理解できたか。
- ③話し合いや討議ができたか。





スタート  
↓



(1) 題 材 名：「掃除について考える」

(2) 題材設定理由：最近、学校によっては、校内の汚れが目立つ。そこで生徒の掃除に対する意識を高め、積極的に掃除ができるよう清掃の意義を考える。

(3) 対 象 学 年：1 学年

(4) 本 時 の 目 標：①劇を通して、掃除の意義について考え、豊かな心を育成する。

②人前で意見を発表し、他人の意見も聞くことのできる態度を育成する。

(5) 準 備：会話劇のシナリオ（男子1名、女子3名）（次ページ資料2-2）、更紙、マジック、模造紙「世界の学校掃除地図」（次ページ資料2-3）

(6) 形 態：7名程度の班を作り、班ごとに分かれる。

(7) 授 業 の 展 開

	活 動 の 内 容	活動の主体	時間	指導・援助の留意点
活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のテーマと、進め方を説明する。</li> <li>班を作り、班毎の司会者と発表者を選ぶ。</li> <li>会話劇に出演する生徒を選ぶ。</li> </ul>	議 長	5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に議長と司会、進行を打ち合わせる。</li> </ul>
活動の展開	(1) 資料2-2の会話劇を2回行う。 (2) 黒板に4つの質問を書く。 ①A男はどういう生徒だと思うか。 ②B子の考えをどう思うか。 ③D子の言った、アメリカの学校では生徒が掃除をしないことをどう思うか。 ④C子の疑問の、掃除の意義をまとめてみよう。	生 徒 各 自	5 分 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ感情を込めて行うように助言する。</li> <li>まとめを模造紙に書き発表させる。</li> </ul>
	(3) 各班は4つの質問を話し合い、まとめて発表する。その後、意見交換をする。	議 長	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>掃除の意義</li> <li>①基本的な生活習慣の育成</li> <li>②公共心の育成</li> <li>③協調性の育成</li> <li>④人間形成</li> </ul>
	(4) 資料2-3の学校掃除地図を配布し、説明する。	教 師	5 分	
	(5) 掃除の意義をまとめる。			
活動のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>何人かに、これからどのように掃除に取り組むかを聞いてみる。</li> </ul>	議 長	5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめ時間を必ずとる。</li> </ul>

(8) 評価の観点

- ①掃除の意義を各自が理解できたか。また、話し合いや討議がグループ内で十分にできたか。
- ②劇とその後の話し合いが楽しく進み、掃除の意義を十分に認識し、「やらされる掃除」から「自ら行う掃除」へと発想を変えられたか。
- ③環境教育の意義や地球の環境保全と掃除との関わりについて考えられたか。



〔資料 2-2〕 会話劇のシナリオ

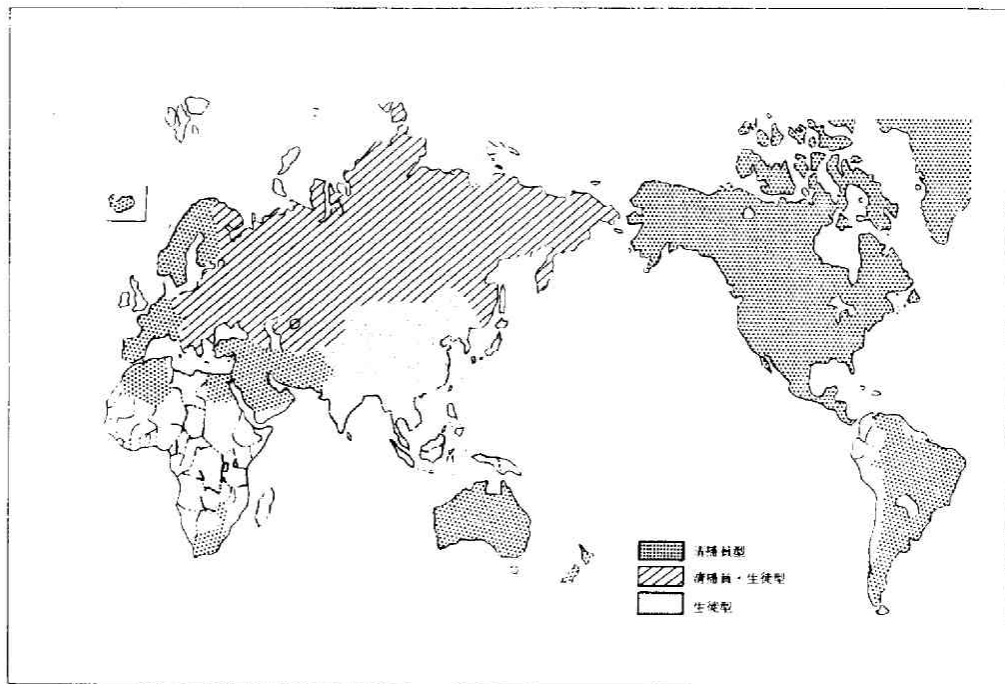
一年E組教室、昼休み、食事も済み、男女数人がそれぞれにグループで雑談をしている。  
 A男は机の中からゴミを取りだしポイと捨てる。  
 それを見ていたB子たちのグループ三人はA男の方に近づいて来る。

B子「A男君だめじゃないの、そんな所へゴミを捨てちゃ。私、今日掃除当番なのよ。」  
 A男「（少々照れながら）どうせ放課後掃除するんだろう。それに俺掃除当番なんだから。うるさく言うなよ。」  
 C子「（突然）A男君はいつでもゴミを教室に散らしているわよ。だいたい貴方の机の中はいつも汚すぎるのよ。」  
 A男「そんなこと言ったって、汚いから片づけたんだ。それにしても俺達学校に授業料払っているのに、なぜ掃除までやらせられるんだ？言い換えればお客様だぜ。全くだいやになっちゃう。」  
 D子「（歩きながら）考えてみればそうね。アメリカに留学していた私の姉が言ってたけど、姉の留学した学校では、掃除は全て業者がやるらしいわよ。」  
 A男「（納得したように）そうだ、そうだ。掃除なんか、お金だして業者にやってもらえばいいんだよ。掃除なんかかったるいだけで意味ないよな。」  
 B子「そんなこと言ったって、うちの担任はうるさいんだから。掃除しないとまた怒られるわよ。」  
 C子「いったい、掃除するってどういうことなのかしらね？」

四人とも沈黙する。

〔資料 2-3〕 世界の学校掃除地図

学校掃除には三つのタイプがあるが、それは宗教を含めたその地域の文化、伝統や社会の特質と深い関係があることが分かる。



出典 著「心と教育」より

### 3 将来の生き方と進路の適切な選択決定に関するホームルーム活動の指導案（例）

- (1) 題 材 名：「自己の将来を考える」
- (2) 題材設定理由：生徒は自己の将来を考える際に、すぐに進学か就職かという選択に意識が向いてしまう傾向がある。そこで、進路選択は自己の将来の在り方生き方との関連において、長期的展望に立って考える。
- (3) 対 象 学 年：1 学年
- (4) 本時の目標：①将来を考える際には、数年後だけでなく、10年後、20年後…と、長期的な展望で考えることが重要であることを認識する。  
②ホームルームの友人の将来設計を知ることを通して、自己の将来を考える機会とし、各自の将来には多くの可能性があることを認識する。
- (5) 準 備：①事前指導として、自分の周囲の人々（保護者、親類、近所の方々等）にその人の人生経験についてインタビューをしておくことを指示する。  
（次ページ資料3-1）  
②原稿用紙、将来設計表（次ページ資料3-2）を人数分、「〇〇代の私」一覧表6枚（模造紙に「卒業後の私」「20代の私」…「60代の私」のように標題をつけておく）、マジック（班の数分）、セロテープを用意する。
- (6) 形 態：男女混合の7～8名の班を作り、班ごとに分かれる。
- (7) 授業の展開

	活 動 の 内 容	活動の主体	時間	指導・援助の留意点
活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のテーマと内容を説明する。</li> <li>自身の人生経験と将来設計について語る。</li> <li>用意した用紙を配布する。</li> <li>活動の進め方を説明する。</li> </ul>	議長 教師  書記 各班長	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の活動のきっかけとする。</li> <li>一覧表は標題を伏せて配布する。（各班1枚）</li> </ul>
活動の展開	(1) 将来設計表を作る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>各自がそれぞれの年代に自己はどう在りたいかを将来設計表に記入する。</li> </ul> (2) 「〇〇代の私」一覧表を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>各班で将来設計表を集める。</li> <li>模造紙に指定された年代に従い、それぞれの将来設計表に記されたものを拾い出し、模造紙に書き写す。</li> </ul> (3) 一覧表を基に話し合いを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>回収した一覧表を掲示する。</li> <li>一覧表を基に、議長の司会で感想意見を述べ合う。</li> </ul> (4) 将来設計表を基に「私の将来」という題で次回までに作文を書くことを連絡する。	各 自  各班長  書記 全 員  議 長	20分  5分  10分  2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>「どうなっているか」ではなく「どう在りたいか」を記入するよう徹底する。</li> <li>事前にインタビューした身近な人々の人生を参考にするよう助言する。</li> <li>インタビューを行うに当たって、人権尊重の視点に立っての配慮事項を伝える。</li> <li>必要に応じて、卒業生の例なども紹介する。</li> <li>多様な将来設計があることを認識させる。</li> </ul>
活動のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期的に将来を考えることの重要性和、自己の将来には多くの可能性があることを確認する。</li> </ul>	教 師	3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>より充実した人生を送るためには、今から自己の将来を真剣に考えることが大切であることを伝える。</li> </ul>

### (8) 評価の観点

- ①意欲的に取り組めたか。      ②自己の将来には多くの可能性があることを認識できたか。
- ③長期的に自己の将来を考えることができたか。

### (9) 本時の活動の成果の活用（例）

- ①七夕の日に各自が自分の目標や願いを短かく記入し、教室に掲示する。
- ②将来設計表と作文を基に進路相談を行い、自己の将来設計を実現するための方策を真剣に考えるとともに、人間としての在り方生き方について考える機会とする。

〔資料 3-1〕

身近な人々へのインタビュー

人生で生じた重要な出来事（進学・就職・転職・転勤・昇進・定年・結婚・出産など）を中心に，保護者・親類・近所の方々等に尋ねてみよう。

	卒業	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
さん (オ)								
さん (オ)								

〔資料 3-2〕

将来設計表

	卒業	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
私はこう在りたい								



「目標や願いを短ざくに記入する生徒たち」

- (1) 題 材 名：「人生の先輩に学ぼう ―「身近な人の職業」の取材を通して―」
- (2) 題材設定理由：生徒は将来の進路について大変悩んでいる。特にどんな仕事に向いているか、将来職業人として自立できるのかなどの不安感が強い。したがって、社会人の話を直接聞くことは、仕事についての視野を広げ、独立心や自立の欲求を高める一助となる。また、様々な仕事についての理解を深めることにより、職業観を育成し、社会的自己実現に向けて学校生活を積極的に取り組む意欲や態度を養うことができる。
- (3) 対 象 学 年：第2学年
- (4) 本時の目標：①働くことの意義を、家庭、学校、地域社会などの側面から考え、望ましい職業観を形成する。  
②取材結果から、職業に対する理解と希望する職業との適性の相関関係を考える。  
③進路希望達成に向けて、高校生活の中で自分の在り方生き方に関しての自覚を深める。
- (5) 準 備：「身近な人の職業」取材結果表（次ページ資料3－5）
- (6) 指導の過程：①インタビューの方法についての話し合い（グループ代表）  
②調査項目の検討と決定（グループ代表）  
③保護者あて通知（次ページ資料3－3）、「身近な人の職業」の取材用紙（次ページ資料3－4）による取材の実施（クラス全員）
- (7) 授業の展開

	活 動 の 内 容	活動の主体	時間	指導・援助の留意点
活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の「取材結果」を発表する。</li> <li>取材で気付いたことを発表する。</li> <li>意見を述べる。</li> </ul>	議長 生徒	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な職業についての理解や働く姿を通して、社会人としてどのように社会に貢献しているかを発表させる。</li> </ul>
活動の展開	(1) 働くことの意義を家庭、学校、地域社会ではどうとらえているか、発表する。 (2) 資料から職業と適性の相関関係を調べる。 (3) 資料から仕事の厳しさ、楽しさを通して、生きがいはいか意見を述べる。	議長 生徒	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業観の変遷や、離職率の増加など今日的な話題を助言する。</li> <li>働くことの意義から、望ましい職業観を考えさせる。</li> <li>自己理解の深化を図る。</li> <li>社会人としてどのように社会に貢献していかを考えさせる。</li> </ul>
活動のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路の自己実現のために、学校生活における在り方生き方について用紙にまとめる。</li> </ul>	教師 生徒	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な人の職業の取材から、今後は産業の動向や様々な職業へ目を向け、多くの情報を収集・活用して、進路を絞り込むことのできる能力を育成する。</li> <li>「働く事」についての自分の考え方が取材後はどのように変化したかまとめさせる。</li> </ul>

(8) 評価の観点

- ①生徒は取材に積極的に取り組んだか。
- ②取材結果が進路学習に有効に活用されたか。
- ③進路の自己実現を目指し、学習活動に積極的に取り組む意欲や態度が育ったか。

〔資料3-3〕保護者あて通知(例)

平成\*\*年\*\*月\*\*日

保護者各位

\*\*学年\*\*組  
担任\*\*\*\*

「身近な人の職業」取材へのご協力について(依頼)

日ごろに秋色の深まりゆく今日このごろですが、保護者の皆様にはつつがなくお過ごしのことと思います。

学校では今、文化祭の準備一色となり、2年1組は劇「笛」に取り組んでおります。当日は、是非おでかけ下さい。

さて、「ホームルーム活動」において、身近な人から働くことの楽しさや厳しさを取材して、自分たちの進路決定に役立たせたいと計画を立てました。ご多忙の折りとは存じますが、さしつかえない範囲で職業観などについてお話をいただければ幸いです。

なお、取材項目は次のようなものです。

(1) 職業 (2) 職業における適性  
(3) 仕事の楽しさ (4) 仕事の厳しさ

どうぞよろしくご協力をお願いします。

〔資料3-4〕

「身近な人の職業」取材用紙(例)

	A 氏	B 氏
職 業 名		
適 性		
仕 事 の 楽 し さ		
仕 事 の 厳 し さ		
気付いた こと・取 材の感想		

取材にあたっての配慮事項

- ①事前に依頼文を送付し、相手と約束の日時を決める。
- ②取材の相手は複数とし、職種を変えること。
- ③取材のときは「人生の先輩」とし尊敬の念をもち、礼儀正しく真面目に聞く。
- ④人格を傷つけたり、職業を蔑視したりすることのないようにする。

〔資料3-5〕一身近な人の職業取材結果(例)一

平成4年10月

	職 業	適 性	楽しさ	厳しさ
1	消防士	覚悟的、勇気、真面目	人の命に役立つ	人の命にかかわる
2	証券マン	几帳面、積極的	業績の増減が責任が重く	多忙な時と暇な時がある
3	調理師	明るさ、活動的	料理が美味いといわれる	食料を糟やさい、苦の塩類
4	通 販 士	着ち着き、慎重さ	人と接すること	腰痛(目覚まし)、地味な仕事
5	美容師	技術、明朗、センスの良さ	色気と白い髪が緊張感	お客さんの注文が難しい時
6	保 険	子供が好きな人	子供の成長、子供の笑顔	家庭と国の保障のくい違ひ時
7	カウンセラー	人の気持ちに寄り添う人	話を聴く時、人の悩みに応える時	心身共に疲れるときがある
8	建築業	活動、丈夫な人	完成した時、作る喜び	朝が早いこと
9	インディペンデント	明朗、活動	洋服のデザイン	アドバイスが難しい時、在庫管理
10	印刷業	陽気、真面目	作業がやりがちな時	不良品が出るとき

## V 実践事例に対する評価

### 1 個性を育てるためのホームルーム活動

「人間としての在り方生き方の探求 ―子どもの人権を通して―」ホームルーム活動

#### (1) 新聞記事による事例

①「児童の権利に関する条約等人権問題に関心をもっていたか。」……児童の権利に関する条約について、以前から知っていた生徒はわずか12%であり、身近な人権問題について具体的な事例を書いた生徒も12%しかいなかった。このように生徒の人権についての意識が低いため班ごとの話し合いはあまり活発に行われなかった。

②「自分の意見が表明できたか。」……日本人は人前で自分の意見を表明するのが苦手だといわれている。今回のホームルーム活動でも各自の感想は全員が書いたが、他人に対して自分の意見を表明する活動はあまり活発ではなかった。

#### (2) 寸劇を行うことによる事例

①「生徒が主体的に行動することができたか。」……身近な人権の問題として、「子供の人権」をテーマに3分位の寸劇を各班ごとに発表し、その際、必ず全員が役を演じるということとしたので、劇の題材や構成について各班とも全員で話し合い、人権について無理なく主体的に考えることができた。寸劇自体レクリエーションの要素を取り入れたゲーム的なものとして行ったため、楽しみながら、活動できた。

また、班ごとの感想を各自感想票に書き、発表した内容から、かなり、人権に対して関心をもった生徒がみられた。



「寸劇の1シーン」

②「人権を多面的にとらえることができたか。」……人権をとらえる視点は学校のきまりに対するものが多かったが、中には高校生が、大人の都合によって、大人と子供に使い分けられてしまうという興味深い意見もあった。

#### (3) 今後の課題

①生徒の人権についての意識を高めるために、ホームルーム活動以外でも人権問題を取り扱う必要がある。

②他の授業でも討論形式の形態を取り入れて、人前で意見を表明する機会を多く体験させる。

## 2 社会性を育てるためのホームルーム活動

### (1) 「挨拶について考える。」ホームルーム活動

①「生徒が意欲的に取り組んだか。」……最初、生徒は、おもしろくないと感じていたようだが、班の中で話し合い、それを発表するところにはかなり活動が盛り上がってきた。

また、ロールプレイも意欲的に取り組み興味を示していた。

②「挨拶の意義が理解されたか。」……挨拶は単に形式的なものではなく、人間の存在や他者に対する思いやりの他、自己啓発の意義などもあることを考えることができた。

③「コミュニケーション能力の育成はどうであったか。」……班活動で進めたことが多くの意見が出ることに繋がった。また模造紙に書いて黒板に張り出すことが意見の交換に効果的であった。

④「時間配分はどうであったか。」……生徒の発表にかなりの時間が取られ、少し時間が足りなくなった。時間配分に工夫が必要である。

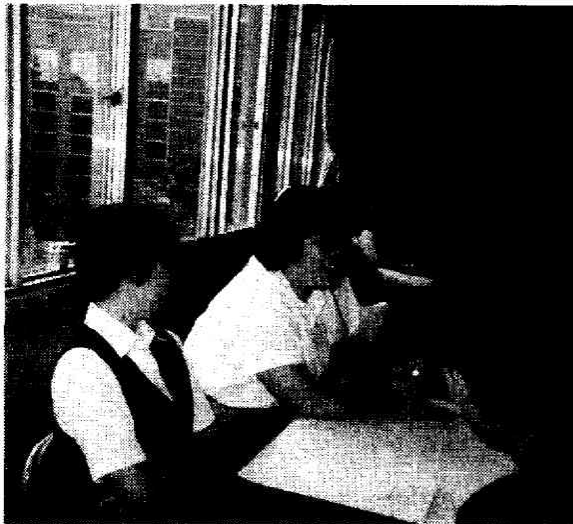
### (2) 「掃除について考える」ホームルーム活動

①「生徒が意欲的に取り組んだか。」……(1)の題材と同じ傾向であった。

②「掃除の意義が理解されたか。」……世界の学校掃除地図には多くの生徒が驚いていた。生徒型のタイプがアジアにおけるこの地域の文化、伝統と深い関係があることを知り、今後も生徒型の掃除を続けていくことが良いとする生徒が大多数であった。

③「コミュニケーション能力の育成について。」……(1)の題材と同じ傾向であった。

④「時間配分はどうであったか。」……(1)の題材と同じだった。



「A君はどういう生徒かな？」



「僕達はどう思うよ。」



### 3 将来の生き方と進路の選択決定に関するホームルーム活動

#### (1) 「自己の将来を考える」

- ①「生徒が意欲的に取り組んだか。」……8割の生徒はインタビューを行ったが、2割の生徒は行ってこなかった。グループでの話し合いは比較的活発であったが、インタビューをして来なかった生徒の多い班は、不活発であった。このため、事前準備を徹底する他、万一の場合を想定して教師があらかじめ適当な資料を用意しておく必要もある。
- ②「自分たちの将来には多くの可能性があることを認識できたか。」……年代ごとの「一覧表」には5～8の将来設計が挙げられ、多様な将来設計があることを認識できた。これについて班での話し合いは活発に行われた。しかし、クラス全体での討議は普段から討議の経験が少ないことなどもあって盛り上がりには欠けた。
- ③「長期的に自己の将来を考えることができたか。」……ほぼ全員が「将来設計表」を完成することができたが、50代以降の記述は具体性に欠けるものが多かった。事前にもっと将来の夢を語れるよう適切な助言をする必要があるものと思われる。また、全員が「私の将来」という作文を提出し、8割の生徒が真剣に自己の将来を考えていることがうかがえた。さらに、「自己の将来設計を実現するために、現在の学校生活をより充実させたい。」と書いている生徒が数名いた。

#### (2) 「人生の先輩に学ぼうー「身近な人の職業」の取材を通してー」

生徒は「身近な人の職業」取材を期日までに全員実施した。このことから生徒の進路への関心がいかに高いかが分かった。今回のホームルーム活動では、次の点で効果が上がったと考えられる。

- ・生徒は職業の適性や厳しさを良く理解できた。
- ・職業観や生きがいについて考える契機となった。
- ・希望する多くの職業から、一つに絞り込む時期を意識し始めた。
- ・進路の実現のため自分の在り方生き方を考え始めた。
- ・「取材」を通じて親子のコミュニケーションが豊かになった。

生徒からは、「取材項目に『労働条件』、『仕事を選んだ動機』などを入れると、さらに職業の実態を見ることができた。」という意見がでたので今後の改善の視点としていきたい。

今後の課題としては「こんな高校生を期待する」というテーマで、受け入れ側の職場の要望も聞き、今の生徒に対する課題を解決するため、教職員の指導体制を一層充実させる必要がある。



## VI アンケート調査に見られた意見

以下はアンケートの記述箇所に記されたものの抜粋である。

- (1) 現在1年生を担当していますが、担任の一方的な考えで運営しすぎるきらいがある。もっと生徒の自発的な考えを尊重したホームルーム活動としたいと思っている。また、ホームルーム活動を行うのに、他のクラスと足並みを揃えなければならないというのが、足かせになっているような気がする。(J 高校全日制)
- (2) HR委員や各種委員との打合せの時間が十分取りにくい。また、資料を作成するのに時間がかかり、準備がなかなか大変である。ただし、十分といえないまでも準備しておくと話合がうまくいくので、忙しいが準備はしている。(T 高校全日制)
- (3) 文化祭、体育祭は非常に熱がはいるが、それ以外の、例えば、進路等に関する指導には、1年生ということもあって、あまり関心を示さない。男女間のことや、青年期の特質等についてはホームルーム活動ではなかなか取り上げにくいテーマであり、その時間的余裕がないのが現状である。(T 高校全日制)
- (4) ホームルーム活動の時間は、先生の事務連絡の時間と思っている生徒が多く、話をしようとしても「もういい」とか「まだ?」とか言って、帰りがたったりする。(S 工業高校全日制)
- (5) 進路指導、進路学習を軸と考えているが、行事の連絡調整、問題行動などの説諭に相当の時間をさかれ、ホームルーム担任が指導案を作成して行うホームルーム活動はほとんどできないのが現状である。学級通信を作成しショートホームルーム活動で若干の補い(特に進路学習は継続的に)を行っている。(H 高校全日制)
- (6) ホームルーム運営委員会による自主的な運営を指導すること、事前・事後の打合せの時間を定期的にもつこと、学年、学校としての全体的な指導計画の中で実施することが大切と考えている。(C 高校全日制)
- (7) 第1学年の担任ですので、高校生活への対応がどの生徒にもできるよう配慮しています。そういう意味ではホームルームの雰囲気づくりにかなりのエネルギーを使っています。放任の中では生徒は育ちませんので、生徒相互のぶつかりあいの中での人間関係作りを心がけています。(G 商業高校全日制)

## VII まとめ

青年期における生き方の指導の充実の必要性は、第13期中教審の教育内容等小委員会の審議経過報告（昭58）の中にも示されている。また、教育課程審議会の答申（昭62）の中では、特に高等学校段階において、人間としての在り方生き方に関する教育の推進と指導の充実を求めている。

さらに、新学習指導要領（平成元年告示）においては、ホームルーム活動を充実、活性化させ、人間としての在り方生き方についての指導をすることの重要性が示された。

これらの視点に立ち、今年度は、各都立高等学校が、ホームルーム活動を具体的にどのような実践しているのかの実態をアンケート調査し、研究を進めてきた。

調査結果によれば、ホームルーム活動の年間実施回数は、平均28.2回であり、今後学校行事の見直しや精選等を行い、ホームルーム活動の実施回数を増やす必要があることなどの課題があることが明らかになった。

また、ホームルーム活動の年間計画を立てている学校は、回答校の3割程度であり、教師一人一人が指導案を作成している学校は約4割にとどまり、各都立高等学校が、ホームルーム活動に組織的・積極的に取り組んでいるとは言い難いと思われる結果であった。さらに、テーマの選定の配慮や指導法の工夫などによりホームルーム活動の活性化を図ることができることから、指導案を十分検討する必要があることも明らかになった。

新学習指導要領に示されているホームルーム活動の内容のうち「個人及び社会の一員としての在り方生き方に関すること」と「将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること」についての授業時数の配当については、各都立高等学校の平均は、現在でも新学習指導要領に基準として示された3分の2以上を満足しているとの好ましい結果も得た。本研究を通して、ホームルーム活動を各高等学校において活性化させ、人間としての在り方生き方の指導を充実させるための視点として、次のようなことが浮きぼりにされた。

- (1) 各学校の教育目標に即すとともに、生徒の特性・進路等にあった指導案を作成する。
- (2) 各学校において実践事例を蓄積し、それを基にホームルーム活動についての教員の研修を促進する。

キーワード：教育研究員，特別活動，学習指導要領，人間としての在り方生き方，ホームルーム活動，個性，社会性，進路指導，ホームルーム活動のテーマ，指導案，指導計画，環境教育，清掃指導，挨拶指導，児童の権利に関する条約（仮称）